

奥会津だより

夏と秋と行きかふ空の通り路は
かたへ涼しき風や吹くらむ

古今和歌集

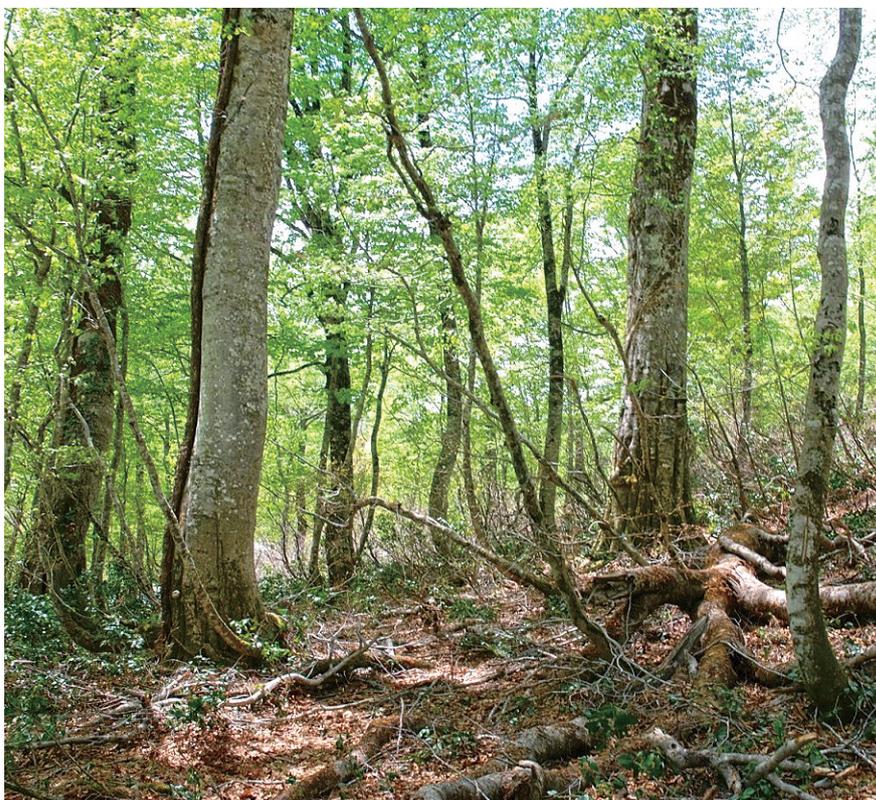
おむしこうちのみつね
凡河内躬恒

あだ花のような盆の賑わいもなく
ひっそりと夏が逝く
食を繋ぐ野菜が溢れ
草々が高く繁茂する
風の道は 夏の後ろ姿

奥会津のブナの森は「もののけの森」

写真・文 新国 勇

人気アニメ「となりのトトロ」と「もののけ姫」は、人と森林との関係がうまく描かれている。トトロは人家周辺の里山の森にすむ。一方、もののけ姫は人が近づけない奥山の森が舞台だ。これを例にとれば、奥会津に広がるブナの森は人の手が及ばない自然林であり「もののけの森」といえる。自然林は国内の森林面積の割ほどしかなく日本の宝である。自然林以外の森は人が育てた「トトロの森」で、杉の人工林やコナラなどの二次林からできている。奥会津のブナの森は、世界に冠たる「もののけの森」ではないだろうか。



奥会津の神々

徳一清水(古杉ノ井)と地蔵様のお祭り

柳津町の大野集落は尾根の上近くにあり、徳一が虚空蔵堂を造作したときの樹木を伐採した人たちの住む場所だったという伝承が残っています。

盛夏の炎熱に苦しむ伐採の人々のために、徳一が加治を行うと清水が湧き出し、のどを潤すことができたと伝えられています。この清水のそばに、徳一は光泉寺を建てました。地蔵堂の清水は、現在は近くに移されましたが、清冽な水は大切に維持されています。

地蔵堂の六体の地蔵様は、子どもを守るためにいつもは家々を回り、お祭りの日に堂に戻ってくるかとされています。柳津町の大野集落に夏の終わりを告げる、つつましやかなお祭りです。

(写真・文・菅家博昭)



消えた村の記憶



一本名の発電所から国道と別れ、霧来川に沿って崖沿いの砂利道をニキロ程行くと、茅屋根の集落があった。今は無人となった三条である。道が閉ざされる冬、一人の屈強なおのこが物資や郵便物の運搬をして集落はかろうじて維持されていたが、彼の亡き後、村人はこの集落を離れた。上の家の裏手から望むこの写真に全戸が写っている。

昭和五十六年六月 金山町・三条

写真・文 竹島善一



聞き書き百選

おじいちゃんたちの戦争の時代

昭和村立昭和小学校 五年 馬場 遥希

この写真は、馬場家の夫婦四代
のめずらしい写真だ。昭和十九年
の写真だが、県内でも四代夫婦が
元気な家族は無かったなあ。

一番年寄りのじいちゃん、ばあ
ちゃんは九十一歳、このばあちゃん
と同じいちゃんが十八歳の時、戊
辰戦争があつて、佐倉にも官軍が
せめてきて糸沢ちゅうとこにはあ
ちゃんは逃げて行つただあ。年とつ
て九十歳の頃、認知症になつて、
となり家に「敵が来たからたすけ
てくる」と、よく逃げて行つただ
とお。じいちゃんはよく父ちゃん
から話を聞いた。

二番目のじいちゃんは、日露戦

取材ノート

馬場 遥希さん
(平成十年生)

当時小学五年生

馬場 政之さん
(昭和二十年生)



政之さん…孫の遥希に語つたこと
は、私が父や祖父から寝物語のよ
うに聞かせてもらったことだから、
だいたいは覚えています。

Q: 四世代のご夫婦の写真ですね。
政之さん…県内でも珍しかったこ
とで、県庁から撮影に来た時の写
真だったそうです。

二代目は、八升カメ、っていう
あだ名が村中に響き渡っていた大
酒飲みの豪傑。カメジという名前
でした。日露戦争に行つた傷痍軍
人で、国が県から手当てが出ると



争に行つてきたんだ。三番目のじ
いちゃんが一番若いじいちゃん
太平洋戦争に行つた人だあ。じい
ちゃんは一番若いばあちゃんのは
らの中にいただあ。馬場家の初代

いう話があつた時に、「お国のため
に戦つて、国から金をもらうこと
は出来ない」と断つたんだ。

三代目は、鬼の軍曹などと言わ
れた軍人で教官でした。でも、す
ごく気持ちが良い人で、こつち
から行つた人たちには、親切だつ
たそうです。教える時は厳しいが、
面倒見は良かった。銃剣道で全国
大会へ行つた人で、私は剣道を教
えてもらいました。

四代目が親父で、水稲栽培の農
業一筋、ミノをかぶせると見えな
くなるような小さな田を作つたり、
水のかかるところは山奥まで水田
を作つたり、一生懸命でした。か
わいそうでかわいそうで、私も小
学生の頃からだいたい手伝いました、
助けたかった。中学の頃は、日の
出る前から一人で稲刈りに行つて、
それから学校に行きました。

から四代目の人たちの写真で大切
な記念写真だあ。

遥希の母ちゃんは六代目。遥希
は七代目となるわけやあ。

私は、祖父からこの話を聞いて
思いました。昔は、戊辰戦争や日
露戦争などの色々な戦争があつて
もだれも、馬場家では亡くなった
人がいないというのがびっくりし
ました。どうして亡くなつた人が
いなかったのか不思議に思いまし
たが人の命がなくならなくてよ
かつたと思ひました。こういう話
を聞いて昔の戦争という事実がわ
かりよかつたです。

遥希さん…学校で戊辰戦争や日露
戦争の授業がありました。教科書
にはない生々しい話をじいちゃん
から聞くことが出来て、興味を持
ちました。馬場家は、よくみんな
生きていたなあ、と。

Q: 昨年、結婚されたそうですが、
遥希さんの現在の夢は?

遥希さん…今、准看護師なので、
正看護師の資格を取りたいです。
じいちゃん、ばあちゃんのために
なることをしたいのと、地元には

高齢者の方が多いので地元貢献
できればいいな、と思います。勤
務先の「昭和ホーム」では、入所
者の方から「孫みてえだなあ…」つ
て言われています。

政之さん…小さい時から、看護師つ
て言っていました。

写真・文責・菅 敬浩

後継ぎ始動!

月田 祥拓さん 平成五年生
茉祐さん 平成五年生

祥拓さんは南会津高校卒、宇
都宮大学農学部卒業後、実家の
南会津町南郷に戻つて、同級生
だった奥さんと共に月田農園を
継いでいる。

祥拓さん…都会よりも実家を継
ぎたいな、と思ひました。

カラーの栽培、ヒメサユリな
どの山野草、クサレダマ、エビ
ガライチゴなどの栽培に勤しむ。

父の礼次郎さんは、「息子の
専攻を知り、オレの姿を見てい
てくれたのか、と感動した。実
家に戻つてきてくれて嬉しかつ
た。林業は一代ではすまないの
で、親父が喜んでいと思う」と
顔をほころばす。

現在、親子4人で「月田農園」
を運営している。



落雁の木型

昭和村大芦集落の家々では、
古い打ち物の菓子木型が使われ
てきた。固いハナノキ(カエデ
属)の木型は、すり減るほどに
使い込まれている。いずれも一
枚型で、薄い作りの菓子だつた
ようだ。季節ごとのハレの日に
感謝や祈りを託して、貴重だつ
た砂糖を大切に美しく飾り、捧
げたものではなかつたか。



大芦地区・五十嵐宇吉氏(故人)蔵。
現在は昭和村教育委員会に寄贈。



菊花はきな粉、葉はカラムシの葉の汁で色
付け。砂糖とわずかの白玉粉で固めた。

令和の奥会津風土記

(一) 柳津町

むらをあぐるく

七月十七日。春に福島県立博物館長を退任された赤坂憲雄さんと柳津町大野・猪鼻・塩野・軽井沢・鳥屋、三島町滝谷、昭和村大岐を歩いた。感染症拡大のため平常のむら歩きはできないため、マスクを付けて、村人には交わらず、むらのなかの社寺や石造物、風景を観察した。感染症の収束を見て地域の皆さんに話をうかがう予定である。



過去のいくつかの記録のなかにその村勢を伝えていいる。
「むらかがみ 邑鏡」や藩・幕府出先に提出した「かきあげ 書上」に、かつてのむらの姿を知ることができる。

奥会津の村々を歩く際には、会津藩が編纂した『新編会津風土記』（文化六年、一八〇九年）を道先案内の書としている。ここには二〇〇年前の村の姿が記載されている。



大野集落の中心にある棚田

大野

柳津町大野は銀山川の右岸の標高四一〇メートルほどの尾根上に位置する村落。

その東手の大柳川の東から会津盆地と接する。会津盆地は、さだいら里平と呼ぶ。

『風土記』の内容を現代語に改め紹介すると「清水、村中にある



白山神社

り、昔、徳一が加持により湧出、今に至るまで水多く清冷なり」、「(光泉寺の縁起に) 昔大同年中に徳一がこの地に来り、柳津村に虚空蔵堂を建てしとき、この山中より材木を伐らせた。盛夏の時にて人夫炎熱に苦しみかつ水に渴き、徳一は六株ある喬木の下で加持したところ、たちまち清泉が湧き出し諸人の渴きを



現在、湧出地点から東側に移されている清水(この伝説については「地蔵様祭り」を参照してください)



熊野神社裏には村中の祠が合祀されている。



地蔵堂



光泉寺と旧清水跡

癒やして蘇生の思いをした（後略）

現在の大野には、二十数戸の村落の北端と南端に熊野神社が鎮座し、西手に白山神社が設けられている。

村の中央には光泉寺と地藏堂があり、かつての湧水地点も保存されている。

『柳津町誌集落編』（一九七七年）では東に三日月神社がある、としている。村を歩いただけなので今後、大野の皆さんに話を聞いていろいろ教えていただきたいと考えている。

赤坂さんは村を歩いて、湧水を起点として水田（稲作）を村落内に擁していることに留意したい、と繰り返し語られた。光泉寺から東を望み水田と村落を斎藤清さんが版画にしている。その水田のことを指している。



画家・斎藤清がここを描いている

軽井沢

銀山跡

軽井沢集落は、かつては採掘の技術者たちで賑わい、山の斜面は隅々までていねいに開墾し、利用されていた。

植田雅夫さん（昭和十三年生）に話をうかがうと、かつて



棚田（1995年撮影）



集落の中心に建てられた銀山労働者慰霊の碑



明治時代に建造されたレンガの煙突が残る軽井沢銀山跡地

二十八戸ほどあった軽井沢は現住七戸である、という。

鳥屋

西向きの斜面に家屋が並ぶ鳥屋は、土手一面をからむしが覆っている

村々には、現在では見えないものがたくさんある。それらに敬意を払い、留意しつつ、奥会



こて絵を施した土蔵



古峰神社の石柱が建つ毘沙門堂



土手一面に繁茂するからむし

津の人々が歩んできた歴史と今を繋ぎ、村々に新しい風景を見つめる旅が始まった。

文・菅家博昭
写真・菅敬浩

※調査の詳細は、新たな形でお伝えします。



村歩きクイズ

クイズに答えて奥会津の地場産品を貰おう!

問題 柳津町大野集落にある神社の名前は何でしょう。

ヒント:「令和の奥会津風土記」を参照してください。

正解者の中から抽選で5名様に、昭和村の「染めかすみ草」をプレゼントいたします。

●応募方法: 官製ハガキに奥会津だよりの感想、住所、氏名、電話番号を明記の上、答えをお書きください。

●あて先: 〒969-7511
福島県大沼郡三島町大字宮下字中乙田979
奥会津書房 宛

●応募締切: 2020年9月30日消印有効

※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。※クイズの答えは次号117号で発表いたします。

◎115号「腹くっつい」の答え: 腹いっぱい

たくさんのご応募ありがとうございました!



奥会津
お便りコーナー
だよ

お便りコーナー



●オオイヌノフグリがこんなにキレイだったんだと表紙で目が止まり、野ニンジン食べてみたいと思いました。(中略)次号もドキドキです!(本宮市:S.Yさん)

●奥会津だよりを読むと、なぜか真面目に頑張ろうと思ひ、毎日の生活があらためて大切に思ひます。貴紙が改編されるようですが、楽しみです。応援しています。(栃木県矢板市:S.Mさん)

●毎号、只見育ちの母の仏前に供えさせてもらっています。奇岩の杜、写真から神々しさが伝わり、見ているだけで森の中に入って、鳥の声でも聞こえるような気になりました。一度行ってみたいです。(会津若松市:H.Kさん)

●会津の文化・風習など目新しいことばかりです。いつも楽しく読ませていただいています。(田村郡:Y.Aさん)

●中学生の僕が知らない昔の話や郷土料理を見ることができて、いつも楽しんで思ひます。表紙の写真に感動してから、読んで思ひます。(金山町:T.H君)

●表紙の写真と注釈と記事がとても良い。コンパクトにまとまっていて毎号楽しみです。(会津若松市:O.Hさん)

奥会津だよりの定期読者募集中

ご希望の方は事務局まで発送先(ご住所・お名前)をご連絡ください。

問い合わせ先: 奥会津書房
TEL.0241-52-3580 FAX.0241-52-3581
E-mail: oab@topaz.ocn.ne.jp

奥会津振興センターからのお知らせ

「奥会津だよりに」について



今年度は、年3回の発行となります。また、新シリーズ、「令和の奥会津風土記」が始まりました。民俗学者で学習院大教授の赤坂憲雄氏とともに、埋もれた地域の歴史や民俗を訪ね歩き、奥会津地域の未来に新しい風景を見ようという試みです。この村歩きには只見川電源流域振興協議会の担当職員、当該地域の若人も加わり、伝え繋ぐための実践的な試みも行われています。



イベント情報について

コロナ禍の影響により、各種イベントが中止や延期を余儀なくされています。今後、奥会津との健やかな交流が継続できるよう、様々な方面から計画を見直し、新たな形でご案内ができるよう、地域一丸となって取り組んでいます。

新しい取り組みで楽しい企画のご案内できる日を、どうぞ今しばらくお待ちください。



奥会津振興センターの事務所移転について

7月9日より、これまでの三島町役場から、福島県大沼郡金山町大字中川字上居平933番地(東北電力奥会津水力館「みお里」)に事務所を移転いたしました。

奥会津地域の水力発電の歴史や地域産品などの紹介等、ご見学いただくことができます。只見川を見下ろしながらのご休憩にもぜひご利用ください。



発行: 只見川電源流域振興協議会(柳津町・三島町・金山町・昭和村・只見町・南会津町(南郷、伊南、館岩地域)・檜枝岐村)
発行日: 8月31日発行(年3回発行) 事務局: 〒968-0006 福島県大沼郡金山町大字中川字上居平933番地 奥会津振興センター内
TEL.0241-42-7125 <http://www.okuaizu.net> webmaster@okuaizu.net

編集・問合せ先: 奥会津書房 福島県大沼郡三島町宮下 TEL.0241-52-3580

★只見川電源流域振興協議会は、福島県只見川流域の7町村の活性化と振興を図るために活動している団体です。

この冊子は電源立地地域対策交付金の事業により作成されています。